人文社会科学研究の倫理審査申請書 作成要領

申請者用

倫理審査申請の際の注意事項(申請者用)

1. 誤字脱字がなく、わかりやすい文章表現になっていることを提出前によく確認する。なお、「申請者, 研究者…」 「調査対象者, 調査協力者, 被験者…」 など同じ対象を示す用語は統一する。
2. 審査の公正を維持するために、すべての申請資料の消去すべき氏名や固有名詞をマーカーで色づけする。
3. 外国語で調査をおこなう場合、外国語の調査原文と翻訳双方を提出する。
4. 調査依頼書やアンケート等は添付資料とし、添付資料番号はファイル名だけでなく、文書の上やヘッダーにもつける。
5. 学生が申請する場合、指導教員に十分な指導を受け、申請の際のメールには指導教員を CC する。
6. メール の 事故を防ぐためにも、大学で付与されているメールアドレスから送信する。

本倫理審査は、原則として大学院生及び研究者を対象としています。
以下作成要領を熟読して、ご申請願います。

チェック項目

1. 課題名

40字程度で記入。

2. 共同研究者

申請者が大学院生等で、かつ指導教員が共同研究者になっていない場合、当該指導教員名がカッコ書きで付記されているか。

他機関に所属する研究者とともに研究を行う場合には、他機関に所属する研究者も含めて記入する。

申請者が外部機関に所属している場合でも、本学の施設において研究を行う場合、倫理申請を許可する。(共同研究者として本学教員・研究員が必要)

3. 研究の意義・目的

審査に十分な情報が、明確、適切、かつ具体的に書かれているか。

研究の意義が先行研究の引用とともに的確に、かつ簡潔に述べられているか。

4. 研究内容等の概要

(1) 調査・実験の対象者

審査に十分な情報が、明確、適切、かつ具体的に書かれているか。

対象者の人数(予定)が書かれているか。

対象者の選定方法が明確に述べられているか。

選定方法は適正、公平、適切、誠実なものか。

対象者に協力を得る方法が明記されているか(謝金や謝礼の有無なども含む)。

対象者の選定をある機関や団体に依頼する場合、その機関・団体が対象者をどのように選定するのかという点についても述べる。

対象者は未成年者(18歳未満)か。その場合、保護者の了解を取る手続きがどのように設計されているか。

対象者を授業に関連させて募集する場合、調査への参加が成績評価とは関係しないことが述べられているか。

センターや研究所の業務と関連して行われる調査については、研究目的でのデータの2次使用の可能性について、対象者の同意を得ているか(アンケートであれば、質問項目の1つとするなどで対応可能)。研究発表を行う予定のない調査であれば、倫理審査は不要。

研究内容に応じて調査対象者に次のような配慮が必要になる場合もある。

対象者を家族とする場合、家族内でそれぞれの回答のプライバシーが守られるような配慮

(別々の封筒を与える、など)がされているか。また、研究のテーマが家族の葛藤などにふれる場合、研究協力から家族内に不和が起こったりしないような配慮がなされているか(たとえば、研究テーマが夫婦間の満足度・葛藤に関する場合、相手の回答をめぐり夫婦間に衝突が起こることがある)。

対象者は日本語を十分に理解できるか。できない場合、調査で使用する言語について適切な配慮

がなされているか。研究者は対象者を理解し、研究を倫理的に遂行する言語能力があることを示す。

対象者集団には、研究対象者となる同意を得ることが困難であり、個人情報の秘密の保持に通常以上に配慮を必要とする特別な集団を含むか(たとえば知的障害、言語障害をもった人々や精神障害者、幼児など、あるいは施設生活者のような人々など)。そのような場合、どのような配慮をおこなっているか。

対象者を匿名にできない場合、その理由が妥当であるか、実名での公表及び具体的な公表内容等についてインフォームド・コンセントがおこなわれているか。

(2) 諸手順

審査に十分な情報が、明確、適切、かつ具体的に書かれているか。

調査・実験対象者が参加する頻度・密度は適切か。

対象者に協力を依頼する期間や時間は適切か。

過度な負担をかけないか(研究目的と関連がうすい、又は不必要なデータ収集を行っていないか)。

研究がおこなわれる場所は適切か。

いかなるデータが記録され、どのように記録されるか。

調査・実験者を補助するのは誰か。機械や備品、また器具を使用するか。もしそうであれば、必要な情報を申請書、あるいは添付資料に加えてください。

5. 研究期間

審査に要する時間を考慮し、研究期間の開始日は、「委員会承認日以降」とする。開始日は、原則として調査・実験におけるデータ収集を始める日とする。

予備調査であっても、収集したデータを研究データとして用いる場合は、倫理審査申請が必要。

研究期間の終了日は、次年度の3月31日以前か。

翌々年度にまたがって同一の当該研究を継続する場合、承認を受けた研究期間の終了日以前に、倫理審査の延長申請を提出する。終了日以降に延長申請が出された場合は、終了日にさかのぼって新たな研究期間を設定する。

本学附属学校園で実施する研究については、本委員会での承認後、附属学校園の教育研究推進委員会での了承が必要になるが、それを踏まえた研究開始日となっているか。

6. 研究における倫理的配慮

(1) 研究対象者の個人の人権擁護の方法

対象者のプライバシーは適切な手段で保護されているか。

対象者の自律性、自由意志、人格性は十分尊重されているか。

対象者が単なる研究の手段・データとして扱われていないか。

情報に接近するのは誰か(研究代表者だけか共同研究者も含まれるか)。

データはどこに保管されるか

研究終了後の匿名化されたデータについては、大学内の施錠可能なキャビネット等での保管が原則。

分析中・執筆中のデータについては、保管場所・方法を明記する。

データはどれだけの期間保管され、いつ破棄されるか。

データの保管、送付の際などには、パスワード・暗号化などで守られているか。

調査・実験結果が公にされる場合、対象者の個人情報の秘密性はいかにして守られるか。

原則として個人情報記載の調査データ(例:インタビューの録音データなど)は、匿名化後、速やかに破棄する。匿名化されたデータについては、修士論文等の提出時点あるいはそれを学会や書籍等で発表した場合は研究成果の発表時点から原則として10年間保存するものとする。

調査データ以外にも、謝礼の支払い等のために得る名前や送付先住所、口座番号なども重要な個人情報である。これらの個人情報の扱いの原則は、以下のとおりである。審査の都合上、申請書に謝礼の資金源について、特に公的資金か否かが分かるように記載してほしい。

(a) 公的資金を使う場合は、財務課に証拠書類を提出すれば、財務課の責任の元、必要期間保管となるので、研究者の手元からは個人情報は「速やかに破棄」する。

(b) 公的資金を使わない場合は、保管期間や保管の対象とすべき情報は、研究者個人の判断で決めること。保管の主な目的は、調査の協力者から謝礼受け取りについて異議申し立てを受けた際の対応のためである。なお、保管場所や保管方法については、同意書や匿名化済データなどと同様に厳重に扱うこと。

対象者へのフィードバックについて適切な配慮がなされているか。また研究協力の一部として心理検査などを協力者が受ける場合、自分の結果について説明を受けることが可能なのか、またそのような状況への対処について述べる。

(2) 研究対象者からインフォームド・コンセントを受ける方法

同意書の書式が添付されているか。

同意書は協力者に分かりやすい表現で説明されているか。

同意書はどこに保管されるか。

同意書は、原則として5年間保存することとする(ただし、個人情報なので管理に留意し、しかるべき時に必ず破棄する)。

同意撤回書を作成する場合には、同様の取扱いとする。

① インフォームド・コンセントを受ける手順

過不足のない適切な情報提供がなされるよう配慮されているか。

相手の実質的な理解と納得が得られるような手順になっているか。

相手の自発的な意思決定を支援するような手続になっているか。

信頼関係にもとづく双方向的なコミュニケーションとして設計されているか。

調査者と対象者の関係から依頼を断りにくいなどの懸念はないか。

作業の負担量と協力者のインフォームド・コンセントのバランスを考慮しているか。

中途での調査離脱の自由は明記されているか。

未成年者の場合の配慮は適切になされているか。

同意書の保管場所・手段は適切か。

② 研究対象者から同意を得ることができない研究の場合にはその理由と、それによって生じる可能性のあるリスクや倫理的問題を回避するための対応方法

実質的な同意を得ることができているか。

実質的な同意を得ないでなされる研究の場合、適切な対応が周到に準備されているか。

(3) この研究によって生ずる個人の不利益及び社会的貢献の予測

①本研究によって生ずる個人の不利益

②本研究によって生ずる社会的貢献

研究によって生じうる不利益、負担、リスクを十分客観的に推定しているか。

リスクを最小限にする努力、工夫がなされているか。

また憂慮する事態が起こったときの対応策が計画されているか。

研究としての価値や、社会的利益、学術上の貢献等が積極的に述べられているか。

単に研究としての価値や、社会的利益、学術上の貢献等があるというだけでなく、比較衡量によって予想される不利益やリスクを十分に上回ることが積極的に示されているか。

(4)その他

審査に必要な補足資料が過不足なく添付されているか。以下は、添付資料の一例です。

- －調査・実験に用いる書類の見本(お願いの手紙、対話の見本文(インタビューガイド)、質問票、同意書など)
- －公立学校や特定の人々が住む住宅、あるいは会社のような協力施設からの委任状や許可状。
- －未成年の子ども達が含まれる場合の、保護者に対する説明の文章や同意書。

7. 研究結果の公表予定

研究成果の公表方法が、プライバシー保護や調査対象者への説明と整合性があるか。

研究成果の社会的還元方法は最善を尽くしているか。

8. その他

審査によって修正が求められた場合、修正版の申請書には必ず「修正対応表」を添付する。

審査結果に対する異議申立て先は、研究・産学連携課とする。

すでに研究に着手している場合、終了した研究はさかのぼって審査の対象とはしない。

共同研究者が所属する大学等の研究機関において倫理審査がすでに終了している場合、原則として、当該他機関の審査を以って、本委員会の審査に代えることができる。

実験や調査等が卒論執筆や授業での課題等、教育を主目的として行われた場合、本委員会では審査対象としない。ただし、卒論執筆等のために行われたものであっても、その後、そのデータを用いて学会発表を行う予定があるなど、多分に研究目的があるものとして捉えられる場合には審査対象とする。

調査会社を利用したウェブ調査などの場合も、調査主体(研究者名や連絡方法)を明記する。

調査会社利用時は、個人情報の扱い等に関して研究倫理上の問題がないことを示す資料(プライバシーポリシーなど)の提出を求める。

(2025年1月30日第三回倫理審査委員会承認)

記入例

別記様式第1（第5条第1項関係）

受付番号

倫理審査申請書

令和 7年 4月 1日

国立大学法人お茶の水女子大学
人文社会科学研究所の倫理審査委員会委員長 殿

研究責任者
所属 大学院人間文化創成科学研究科
職 ○○専攻 博士後期課程3年
氏名 ○○ ○○○ 印

コメントの追加 [A1]: 審査の公正を維持するために、消去すべき氏名や固有名詞をマーカーで色づけしてください。
申請書全体、添付資料など全てにおいて徹底するようにしてください。

国立大学法人お茶の水女子大学人文社会科学研究所の倫理規則第5条第1項の規定に基づき、下記のとおり申請します。

記

1. 課題名	女性の妊娠経験に関する聞き取り調査研究
2. 共同研究者	大学院人間文化創成科学研究科 ○○専攻 博士後期課程1年 ○○○○○○ ○○大学 ○○学部 教授 ○○○○○○
3. 研究の意義・目的	日本では1970年代以降に妊娠・出産の医療管理が進んできた。妊娠を確認し、胎児の画像を超音波写真で見、胎児の染色体や遺伝子の検査も行なうことができる。それによって女性にとって妊娠経験はいかなるものになるのだろうか。この研究では女性の主観に焦点をあて、医療化された時代の妊娠経験を描きだす。日本の女性の妊娠経験については、質問紙調査はいくつか実施されている（（○○2000）、（○○2002）など）が、医療化された妊娠経験を女性自身がいかに考え、評価しているかに関する大規模な資料は非常に少ないため、貴重な研究資料となる。
4. 研究内容等の概要	(1) 調査・実験の対象者 東京都内在住の2年以内に妊娠経験のある18歳以上の女性100名を調査対象者とする。年齢は問わないがほとんどが20歳代から30歳代であると予想する。調査対象者の募集は都内全域の保育園や産婦人科・小児科病院で協力依頼のポスター100部とチラシ約5000部を配布し、協力の意思のある方に連絡先を記入したメールを送ってもらう。調査協力に対する謝礼として○○円分の図書カードを進呈する。

コメントの追加 [A2]: 審査の公正を維持するために、消去すべき氏名や固有名詞をマーカーで色づけしてください。
申請者が大学院生等で、かつ指導教員が共同研究者になっていない場合は、指導教員名をカッコ書きで書いてください。

コメントの追加 [A3]: 目的を明確に、かつ簡潔に、専門外の人間にも理解できるように書いてください。

コメントの追加 [A4]: 先行研究などを明示して調査の学術的意義も書いてください。

コメントの追加 [A5]: この欄に記載した内容と、添付資料に書かれた内容に齟齬がないか提出前によく確認してください。

コメントの追加 [A6]: 水色のマーカー部分は、申請書様式にはありませんが、このように項目立てて記入してください

コメントの追加 [A7]: 「調査対象者」「参加者」「協力者」など同一の対象を示す場合、申請書内で呼び方を統一してください。

記入例

(2) 諸手順 調査協力のメールを受け取ってから、調査対象者とインタビュー日時・場所を調整するために連絡をとる。インタビューの所要時間は約1時間から2時間である。調査は基本にお茶の水女子大学の会議室を借りて行うが、調査対象者の要望でその自宅等で行うこともある。質問内容は質問票（添付資料3）にあるとおり。インタビューは、調査協力者の同意のもと録音する。	
5. 研究期間	委員会承認日以降 ～ 令和〇年3月31日
6. 研究における倫理的配慮	
(1) 研究対象者の個人の人権擁護の方法 調査対象者のプライバシー情報に関しては、データ分析の際には個人名や医療機関、地域等の匿名化を行ってから扱う。文字データに変換後の録音データは速やかに廃棄する ¹ 。分析中や執筆中のデータは、パスワードをかけたUSBメモリに保存し、大学研究室や申請者の自宅で作業を行う。研究終了後、匿名化した文字データは当該研究成果の発表時点から10年間、調査協力の同意書は5年間、申請者の研究室の鍵のかかるロッカーに保管する。保管期間終了後は、復元不可能な形で廃棄する。	
(2) 研究対象者からインフォームド・コンセントを受ける方法（同意書の書式を添付すること）	
①インフォームド・コンセントを受ける手順 調査の説明はポスター及びチラシに記載する（添付資料1）。インタビューに際して、改めて研究目的、調査時間、方法、録音の承諾、データの匿名での公表、公表方法、同意撤回方法、フィードバックなどについて記載した インタビュー協力同意書 （添付資料2）を渡して文書と口頭にて説明の上、同意書へ署名をもらい、申請者と調査対象者が一部ずつ保管する。同意書の保管については、(1)にある通り。 ②研究対象者から同意を得ることができない研究の場合にはその理由と、それによって生じる可能性のあるリスクや倫理的問題を回避するための対応方法 本研究では、対象者から同意を得る手続きが採れるので、この問題には該当しない。	
(3) この研究によって生ずる個人の不利益及び社会的貢献の予測	
①本研究によって生ずる個人の不利益 本調査で予想されるリスクは、調査対象者のプライバシー情報の漏洩と、妊娠という個人的な経験について話すこと、たとえば、流産や中絶の経験などを話すこと、匿名であってもそれを公表することによって調査対象者が不快になることも生じ得ることである。調査対象者のプライバシー情報の漏洩を防ぐことに注意を払い、調査対象者が不快になった場合にはインタビューの最中やその後、報告書・論文執筆期限までに研究協力を辞退することが可能であり、辞退しても不利益を被らないことをよく説明し明記することで、予想される問題を最小限にする。	

コメントの追加 [A8]: HPからダウンロードできる書式ファイルは、ここに年月日を記入するようになっていますが、申請時には「委員会承認日以降」とするのが一般的です。

コメントの追加 [A9]: 研究期間は最長でも申請年度の次年度末までです。

コメントの追加 [A10]: 詳細は同意書の記入例を参照してください

¹ なお、録音・録画データを長期保存する必要がある場合には、その理由と保管方法を詳細に説明すること。

記入例

②本研究によって生ずる社会的貢献

学術的な意義だけではなく、この研究成果は産婦人科医療における患者・利用者の権利を擁護する際の参考資料ともなりうる。また、〇〇による〇〇性の違いに関する知見は、〇〇病などの生活習慣病を社会的重要課題として抱える現代の日本人にとって有用であると言える。本研究により、従来の〇〇法よりも簡易な方法で〇〇できる〇〇が解明されれば、〇〇普及の推進及び社会全体の健康増進へ大きく寄与するものと考えられる。

(4) その他

添付資料1：調査対象者（インタビュー協力者）を募るポスター及びチラシ

添付資料2：調査協力同意書

添付資料3：質問票

7. 研究結果の公表予定

〇〇学会での発表、〇〇雑誌への論文投稿

添付資料 2

添付資料 2

調査協力依頼書及び同意書

本研究は、日本に住んでいる華人主婦のお話を伺い、中国—日本の移住によるジェンダー観の変容及び生活諸方面の実態を明らかにすることを目的とします。この調査では、主婦になる前のご経歴や、いま主婦であるご自身の考え方などについてお話しいただきたいと考えております。

1. インタビューには1時間から2時間程度の時間がかかります。インタビューの場所は、お茶の水女子大学内の会議室などの他に、ご都合に合わせて調整します。調査協力に対する謝礼として〇〇円分の図書カードを進呈します。

2. 個人的な体験についてもお聞きするので、もし質問に答えたくない場合には、お答えにならなくても結構です。ご協力は任意なので、インタビューを中断したい場合にはおっしゃってください。いつでも中断いたします。調査終了後に、辞退される場合は調査終了後〇か月以内にご連絡ください。また、調査の辞退や中断により、あなたに不利益が生じることはありません。

3. 誤りがないよう、インタビューを録音させていただきます。この記録は慎重に扱い、第三者が聞くことはありません。もしご希望があれば、文字化したインタビューデータの内容は後日チェックしていただき、データの使用が可能かどうかをご確認いただけます。使用されたくない箇所は論文や研究発表などで使用いたしません。

4. インタビューを録音したデータは、研究目的以外には使用いたしません。インタビューを通じてご提供いただいた情報に関して、調査者以外の第三者がインタビューを録音した音声データ及びこれを起こした文字化したデータに触れることはございません。また、インタビュー内容から個人の情報が第三者に知られることのないように個人名や組織名は匿名にいたします。

5. 本研究の結果は、お茶の水女子大学大学院博士前期課程△△専攻〇〇コース修士論文として発表いたします。完成した修士論文は、学内で行う修士論文発表会で発表する他、今後、同様の研究を行う学生や研究者に閲覧される可能性があります。そのため、本研究の成果は、今後の学術研究の参考資料にもなります。また、博士論文や他の学術論文、学会発表など修士論文以外の研究発表でもデータを使用いたします。修士論文の調査結果に関しては〇〇年〇月までに以下の連絡先にご連絡いただければ、論文の完成概要をお送りいたします。

私は上記の条件で、インタビュー調査に協力することに同意します。

録音： 同意する しない

令和 年 月 日

お名前：

調査者：お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科博士前期課程△△専攻〇〇コース

名前： 〇〇 〇〇 連絡先： 〇〇〇〇 @ ocha.ac.jp

コメントの追加 [A1]: 添付資料には、ヘッダーに資料番号をつけてください。

コメントの追加 [A2]: 調査の目的

コメントの追加 [A3]: 何を聞くか簡潔に

コメントの追加 [A4]: 調査時間、場所、謝礼の有無

コメントの追加 [A5]: 調査協力は自由

コメントの追加 [A6]: 中断、撤回の権利

コメントの追加 [A7]: 個人情報をどう守るか

コメントの追加 [A8]: どのように公表するのか

コメントの追加 [A9]: フィードバックはどのようにするか。フィードバックができない場合は理由を申請書に書くこと。

コメントの追加 [A10]: 録音などをする場合はそれぞれについて同意を。同意しない場合の対処も申請書に書くこと。

コメントの追加 [A11]: 協力者の署名

コメントの追加 [A12]: 調査者署名